

復興への希望 歌に込め

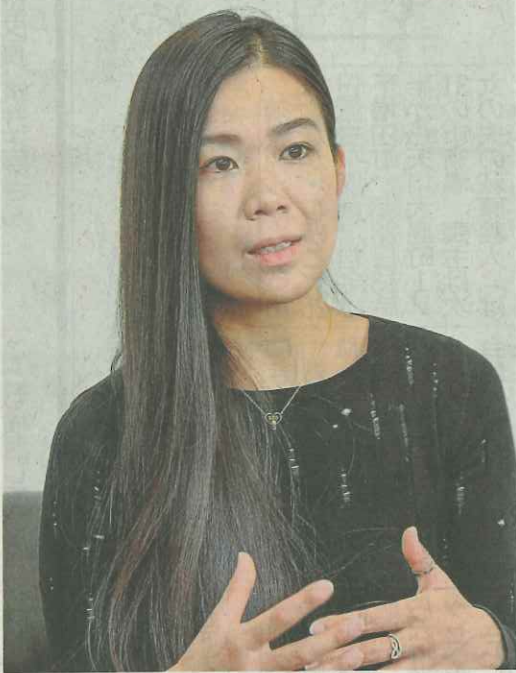
「いつかまた浪江の空を」

11日に配信リリース

震災11年

東日本大震災から11年を迎えるのに合わせ、復興への希望を伝える「いつかまた浪江の空を」が配信リリース(3月11日、キングレコード)される。歌うのは福島県浪江町出身で太田市に避難しているシンガー・ソングライター、牛来美佳さん(36)。楽曲に込めた思いを聞いた。

「震災直後の風景を忘れ



「レコーディングに参加してくれた子どもたちの思いも背負って歌っている」と語る牛来美佳さん

福島出身、太田市に避難

シンガー・ソングライター 牛来美佳さん

ることはできない。『(自分の経験を) 伝えなきゃ』という思いを、音楽に重ねて歌い続けてきた。牛来さんは真つすぐに前を見つめながら、これまでの歩みを語る。

「いつか」が生まれたのは2013年ごろ。西野カナさんら人気歌手の楽曲を手掛ける作曲家、山本加津彦さん(44)が作曲し、歌詞は2人で仕上げた。子どもの頃から歌手を夢見てきた牛来さんは09年、浪江町で開かれた音楽イベントに

参加し、山本さんと知り合ったという。東京電力福島第一原発事故の影響で避難を強いられる浪江町の人たちが一緒に暮らす日が来ることを願う、祈りにも似た歌詞。一方で13年ごろはまだ「希望」や「未来」を歌うには早過ぎて、牛来さんの心が悲鳴を上げてしまった。歌おうと思っても気持ちが入ってこない。イントロが流れるだけで曲を止め、拒絶するようになった。

福島に残ると決めた両親と別れ、11年5月から本県で暮らすようになっていた。幼い娘を育てるシングルマザーでもあった。「なぜこんなに苦しい思いをしなければならぬのか」「震災がなければ…」。悩み続けたが、やがて転機が訪れた。

「たぐさんの人と出会い、支えられ、応援してもらったが、震災がなければ出会えなかったと気付いた。その時、何十年かかったとしても浪江の復興を見られたら幸せだと、希望を持ち始めた」

14年にレコーディングを

上毛新聞社採用試験の概要は次の通りです。

【募集職種・人数】編集記者、広告営業(配属先は入社後決定) 若干名

【筆記試験】3月中旬以降にウェブ試験を行います。

【応募資格】2023年3月に4年制大学を卒業見込み、または1994年4月2日以降の生まれで4年制大学を卒業した人(入社時28歳まで)。学部学科不問。

上毛新聞社 採用試験

応募3月22日締め切り

【申し込み方法】「マイナビ」(2023年版)からの応募フォームとなります。当社にエントリーすると後日、入社志願書(ウェブエントリーシート)形式のメッセージが個人ページに送付されます。メッセージを開き、全ての必須事項を記入して更新すると、応募完了となります。

【応募締め切り】3月22日必着。応募書類確認の上、ウェブ試験を受けていただく方には3月23日までに通知します。

【問い合わせ】上毛新聞社総務局総務部「定期採用」係(☎027・254・9977)

決意し、子どもの歌声を入れるというアイデアで山本さんと一致。福島県二本松市の仮校舎で学んでいた浪江町出身の児童21人の協力で、コーラスを録音した。今回リリースするのは、この時に作り上げたものだ。涙がいつか笑顔に。牛来さんは「いつか」が合唱曲として幅広い世代に親しまれればと願う。同楽曲の特設ホームページでは楽譜を無料ダウンロードできるようにしている。

「いろいろなことがあっても乗り越えて生きていくしかない。この生き抜く力を、音楽を通して、震災のことを通して伝えられたら」

小学生時代

の土蔵、書斎、離れ座敷は